

# Usage Guidelines

Version 2.1.0

～日本における Chem eStandards 利用指針～

石油化学工業協会

情報通信委員会・CEDI-WG

## 目 次

1. はじめに	
1.1 UG : Usage Guidelines とは？	1
1.2 UG の対象範囲と各メッセージの位置付け	2
1.3 UG の構成	5
1.4 留意事項	5
2. 接続モデル	
2.1 モデル化の焦点	6
2.2 基本モデル	7
2.3 検量通知モデル	7
2.4 検収支払モデル	8
2.5 業態・業界固有の接続モデル	8
3. ビジネスプロセスガイドライン	
3.1 項目使用規則	9
3.2 メッセージ交換規則	12
4. 補足	
4.1 ロールの使用方法	26
4.2 内部プロセスとメッセージの状態遷移	27
4.3 受発注の業務パターンごとの BuyerSequenceNumber と SellerSequenceNumber 及び ActionRequest、LineStatus の使用方法について	28
4.4 分納受注時のメッセージの交換ルールと各主要項目の使用方法について	36
4.5 一注文複数明細運用時のメッセージの交換ルールと各主要項目の使用方法について	40
4.6 請求の業務パターンごとの各主要項目の使用方法について	47
4.7 検収通知の業務パターンごとの各主要項目の使用方法について	50
4.8 検収通知と支払明細の業務パターンごとの各主要項目の使用方法について	53
4.9 各メッセージの送信タイミング（推奨）について	54
4.10 LineStatus の使い方(仮称)について	55
4.11 取引条件の送信パターンについて	56
参考文献	59
【別冊】	
A Chem eStandards 項目説明表	
B 共通コード表	
C Chem eStandards 標準の項目使用方法	
D 1 Chem eStandards 「基本モデル」と JPCA-BP との対比	
D 2 Chem eStandards 「コミッションモデル」と JPCA-BP との対比	

## 1. はじめに

### 1.1 UG : Usage Guidelines とは？

Usage Guidelines (以下、UG という) とは、日本の化学品取引向けの Chem eStandards 利用指針である。Chem eStandards の利用が前提であり、Chem eStandards と並置されるもうひとつの EDI 標準ではない。UG は、各企業が Chem eStandards を導入するにあたり、メッセージや項目等について独自の解釈を行うことを排除し、更に、自社の業務システムにおいて、各メッセージや項目をどのように使用するのかを理解するのに掛かる時間を短縮する目的で作成されたものである。

つまり、UG は、メッセージの使い方に焦点を当てたドキュメントであり、システムの導入や送受信に関わる内容は、他のドキュメント類を参考にされたい。(下記参照)

- Chem eStandards そのもの : Chem eStandards V6
- 送受信に関する内容 : RosettaNet Implementation Framework 1.1
- Chem eStandards の概要 : Chem eStandards V6 概説書 (CEDi 作成)
- B2B システム導入に関する内容 : CEDi システム導入ガイド (CEDi 作成)

## 1.2 UG の対象範囲と各メッセージの位置付け

UG が対象としている範囲と各メッセージの位置付けについて述べる。

まず、Chem eStandardsV5.4 のメッセージ群（73 種類）は下図の通りである。



図 1.1 Chem eStandards V5.4 の 73 メッセージ群

Chem eStandards は商談から決済に至る広範囲のビジネスプロセスをカバーしているが、その中でも、最も利用頻度が高い受発注と決済プロセスについて UG を作成している。

次に UG の位置付けを述べる。下図は Chem eStandards の内部構造と各メッセージの位置付けをまとめたものである。

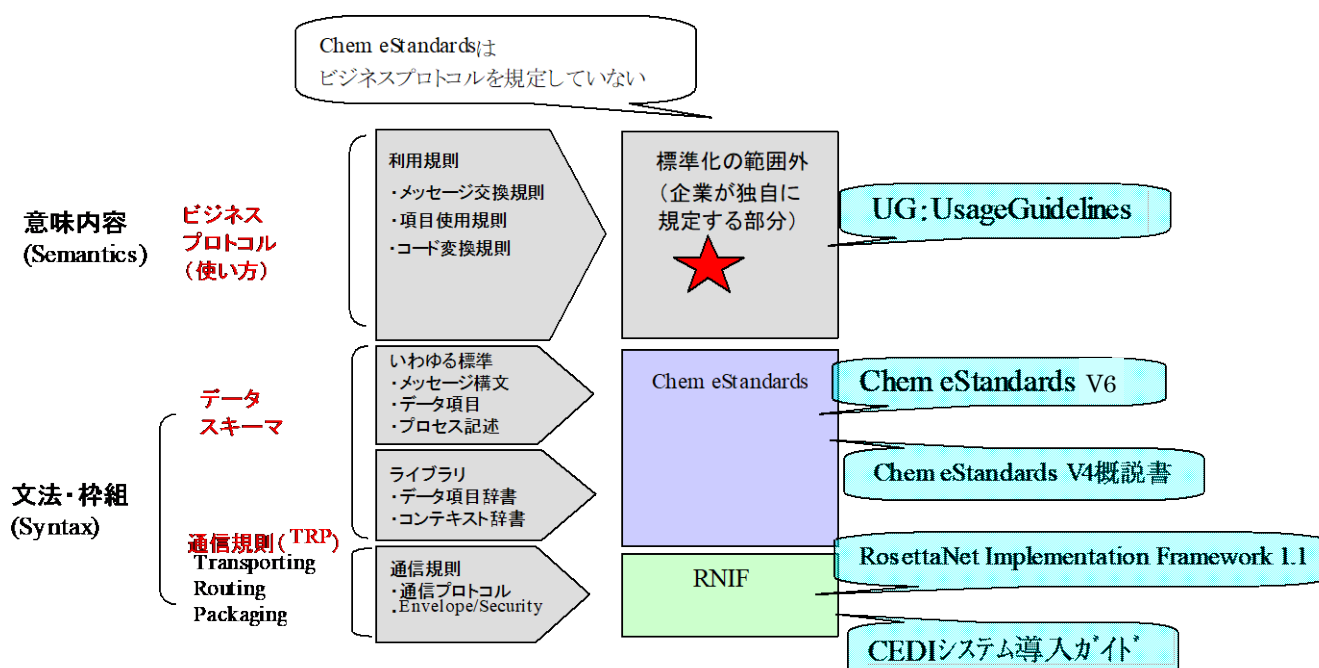


図 1.2 Chem eStandards の内部構造と各メッセージの位置付け

Chem eStandards は、通信規則には RosettaNet の RNIF を利用し、データスキーマ部分は化学業界で独自に定義した EDI 標準である。しかしながら、メッセージの具体的な使い方を表すビジネスプロトコルは規定していない。ビジネスプロトコルは企業の内部プロセスに大きく依存するので、標準として拘束するのは不適當という考え方による。

このビジネスプロトコル部分に焦点を当て、Chem eStandards という枠組に、日本の商慣行を織り込んで指針として提供したものが UG である。また、売り手と買い手との間で交換されるメッセージという視点でまとめると下図のようになり、UG は下図のメッセージ群において、利用指針を示している。

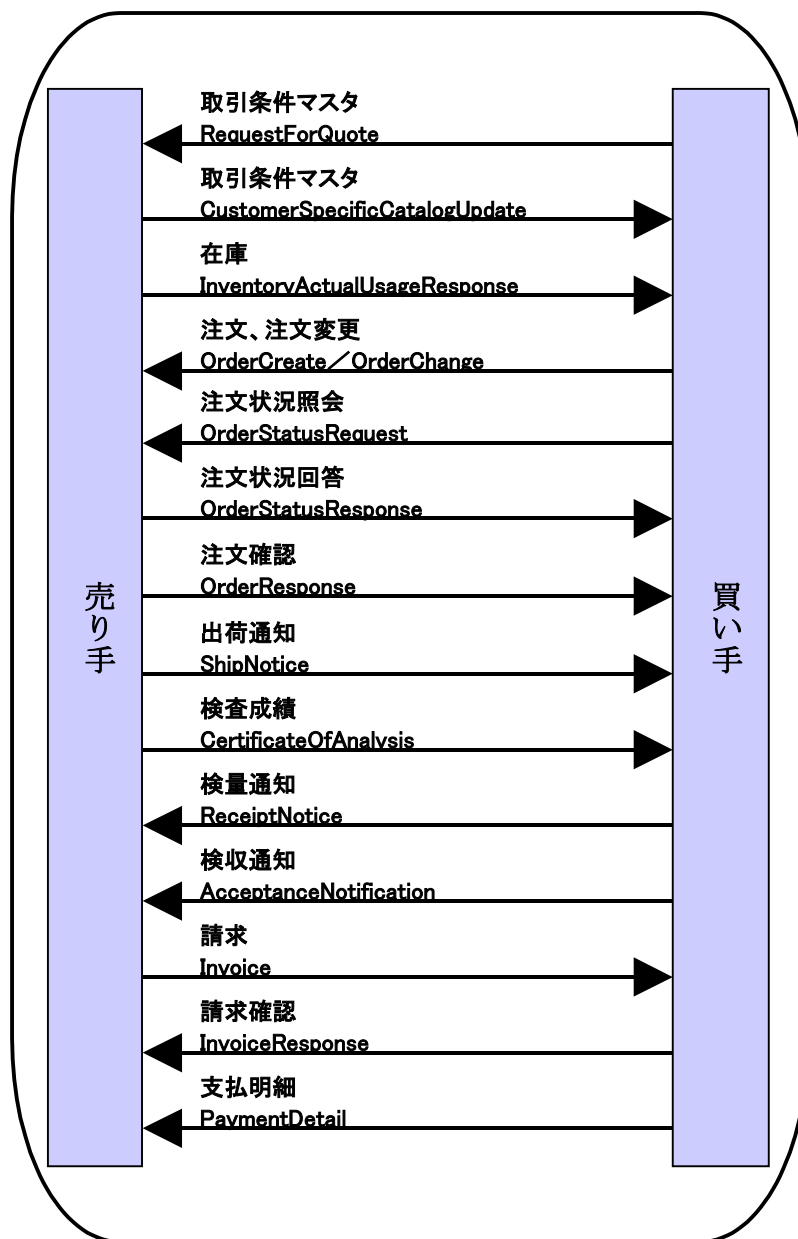


図1.3 UGの対象メッセージ

### 1.3 UG の構成

UG の構成は次の通りである。

- 接続モデル:ある企業が特定の取引先との間で Chem eStandards を利用する場合に、利用を希望するメッセージ（複数）の組み合わせのことをいう。UG では3つの推奨接続モデルを準備している。
- ビジネスプロセスガイドライン：次の規則類からなる。
  - 項目使用規則：個々の項目の使い方に関する規則
  - メッセージ交換規則：メッセージ交換に関する規則
- 補足：各業務パターンとそれに対応するメッセージとの関係において、主要な事項について、項目の使い方などを例を用いて示している。
- 別冊：UG で対象にしているメッセージの項目説明表や共通コード表などを別冊としてまとめたものである。また、JPCA-BP に馴染みの深い方向けに Chem eStandards と JPCA-BP との対比についてもまとめている。

### 1.4 留意事項

この文書の活用に当たっては、次のことに留意されたい。

#### 内容の変更

この文書の内容は、今後の検討や技術動向によって、予告なく変更される場合がある。

#### 免責事項

この文書の内容の正確性については万全を期してはいるが、CEDiはこの文書に含まれる情報の利用に伴って発生した不利益や問題について、誰に対しても何らの責任を負うものではない。

#### 文書の管理

この文書は、石油化学工業協会・情報通信委員会・CEDi 小委員会・技術・標準ワーキンググループが管理する。

#### 商標

- ① CIDX、Chem eStandards は、Open Applications Group Inc. (OAGi)の登録商標または商標である。
- ② CEDi (Chemical EDI initiative) は、石油化学工業協会の登録商標である。
- ③ その他、記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標である。

## 2. 接続モデル

UG では、各化学会社の購買及び販売の業務実態を鑑み、下図の3つの推奨接続モデルを設定した。ここで、接続モデルとは、ある企業が特定の取引先との間で Chem eStandards を利用する場合に、利用を希望するメッセージ（複数）の組み合わせのことと定義する。

「接続モデル」という用語は CIDX の「Connectivity Models」という用語に従ったが、要は、プロセスモデル、プロセスシナリオ、利用モデル、利用シナリオ等といった意味合いである。また、「推奨」とは、各社が自社の接続モデルを定義するときの参考にして欲しいという意味であるので、各社はこれ以外のモデルを自社用に定義して利用することも可能である。

また、接続モデルをベースに、接続先の業態や業界の固有要件を取込んだモデルを 2.5 に記載する。

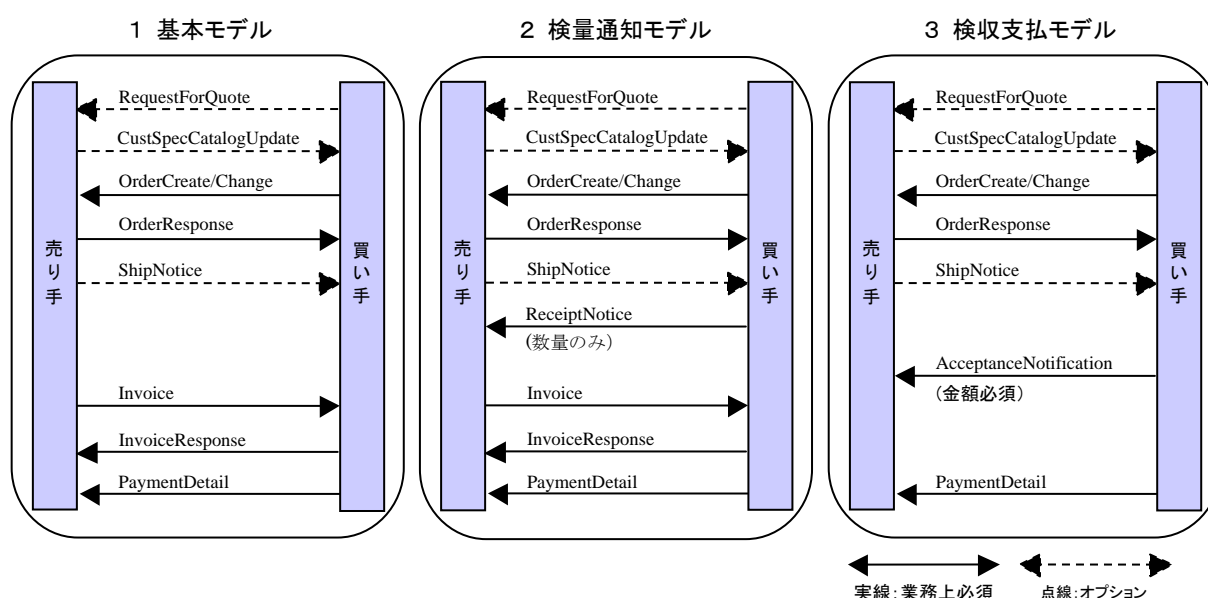


図2.1 推奨接続モデル

### 2.1 モデル化の焦点

上図において、3つの推奨接続モデルを示しているが、3モデルとも受発注から出荷通知までは、共通のプロセスとしている。つまり、CustomerSpecificCatalogUpdate で事前取引条件マスタを交換しておくかどうかは、売り手と買い手間の取り決め事項とし、OrderCreate や OrderResponse は、通常の注文であれば（返品等ではないということ）、必須で交換するとしている。また、売り手が製品を出荷した時点で、ShipNotice を交換するかどうかについては、売り手と買い手間の取り決め事項としている。

一方、決済プロセスの違いについては、使用するメッセージを変えて、モデルを分けている。

以上のように、3つのモデルは、受発注から出荷通知までのプロセスの違いではなく、決



決済プロセスの違いに焦点を当ててモデル化したものである。というのも、Customer SpecificCatalogUpdate や ShipNotice の有無は業務上大きな差異ではない（あればより便利という類のメッセージである）が、決済プロセスの違いの方は、明らかに業務内容が異なっている。そのため、決済系の同一メッセージで異なる業務を運用するには無理があり、メッセージを変えて使用するようになっている。ここに焦点を当ててモデル化したものである。

## 2.2 基本モデル

基本モデルとは、買い手が売り手の請求書に基づき支払を行う、いわば通常の商取引に適用されるモデルである。売り手は、請求書として Invoice を買い手に送信し、買い手は、その確認データとして InvoiceResponse を売り手に送信する。

## 2.3 検量通知モデル

検量通知モデルとは、基本モデルに検量通知を表す ReceiptNotice を追加したもので、数量確定方法が買い手検量基準の場合のモデルである（数量確定方法については図 2.2 参照）。

売り手は買い手から ReceiptNotice を受信し、売り手出荷数量と差異がある場合は請求書の修正を行うことを想定している。尚、当メッセージは、あくまで数量確認が狙いであり、金額は設定されない。このモデルの価値は、売り手における請求書修正の自動化である。

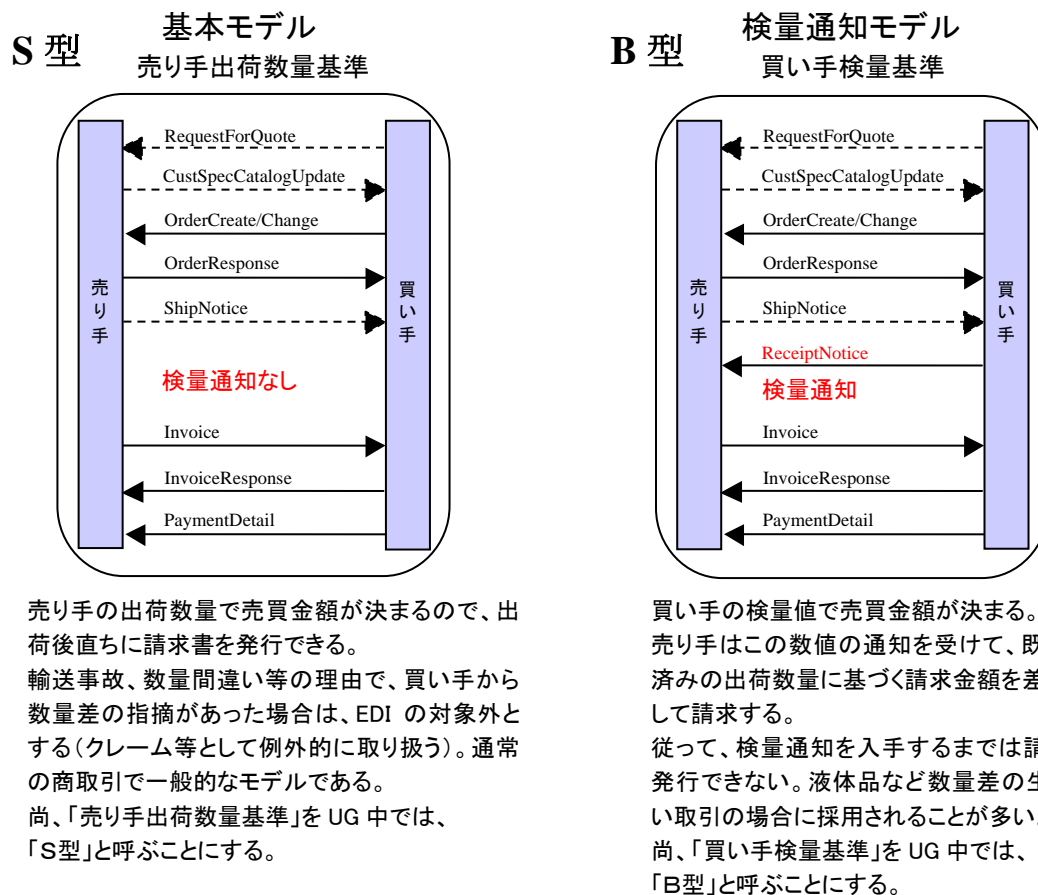


図2.2 数量確定方法

## 2.4 検収支払モデル

検収支払モデルとは、買い手が売り手の請求書をチェックせずに、自社システムの検収情報に基づき支払いを行うモデルである。つまり、請求・請求確認のやり取りを行わず、買い手検量基準で製品単価も買い手の把握単価で支払いを行うものである。（もちろん、売り手側で疑義がある場合は調整を行う。）

この検収支払モデルを設定した理由は、日本の大企業（特に製造メーカ）の購買支払はこの業務形態が多いからである。

尚、買い手検量基準の取引である検収支払モデルには、ReceiptNotice と Acceptance Notification の両メッセージを使用するということも考えられるが、Acceptance Notification は数量と金額の両方を設定できることと、両メッセージのトリガーとなるイベントが同一の検収入力であることから、敢えて ReceiptNotice を使用するメリットは考えにくく、検収支払モデルから ReceiptNotice は外している。

## 2.5 業態・業界固有の接続モデル

### ・コミッション・モデル

商社に代表されるコミッション取引を行う取引先と「売り手の品名や各企業の名称、コード等を使用する」運用のEDIを行う場合のモデルである。

基本モデルがベースとなり、売り手からの取引条件（Customer SpecificCatalogUpdate）が必須となっている。

### 3. ビジネスプロセスガイドライン

ここでは、取引当事者が実際のビジネスプロセスにおいて、Chem eStandards を使用してメッセージを交換する際のガイドラインを以下の観点からまとめている。

- 項目使用規則 : 個々の項目の使い方に関する規則
- メッセージ交換規則 : メッセージ交換に関する規則

#### 3.1 項目使用規則

項目レベルでの使用規則は表 3.1 の通りである。また、主要な項目については、使用規則と共に記述例を示している。尚、記述例はポイントを示す目的なので一部タグを省略している。

表 3.1 項目使用規則

No	項目名	使用規則
1	各項目共通	各項目において、データ内容が数値及びコードを表す場合、使用する文字種は半角英数字とする。
2	各項目共通	各項目において、データ内容が名称及びコメントを表す場合、使用する文字種は全角文字を推奨する。
3	各項目共通	各項目において、半角カナは使用しない。 但し、【コミッション・モデル】では特定の項目についての半角カナの使用を認める。半角カナを使用する場合は、一つの項目の中では全角文字と混在してはならない。
4	数値項目共通	数値項目においては、サイン表示を行う。(負の数の場合は、マイナス表示を行う。尚、正の数の場合は、サイン表示を省略できる。)
5	企業コード (FROM 等)	FROM と TO は、DUNS コードを使用する。その他の企業コードは、取引当事者間で取り決める。

No	項目名	使用規則
6	製品コード (Product Identifier)	① ProductIdentifier で商品を一意に規定する。(推奨) ② ProductIdentifier と ProductDescription で商品を一意に規定する。
	<b>【例】</b> ①ProductIdentifier で商品を一意に規定する場合（推奨） 例）ProductIdentifier : 10000000 →商品名：ポリエチレン、グレード：PE1200 カラー番号：C55、梱包：25KG 紙袋 ②ProductIdentifier と ProductDescription で商品を一意に規定する場合 例）ProductIdentifier : 12300000 →商品名：ポリエチレン、グレード：PE1230 ProductDescription : C5678 →カラー番号：C5678	

No	項目名	使用規則												
7	数量 (Measurement Value)	<p>出荷数量(運送数量)と請求数量(金額算出数量)については、Ship Notice には、出荷数量と請求数量の両方を設定することができるが、Invoice には、請求数量しか設定できない。請求数量には、どのような単位の数量を設定するかは、事前取引当事者間で決めておく。</p> <p>【例】</p> <p>S B R ラテックス 1,600KG (固形分換算 800KG) を出荷するケースで、単価は固形分換算あたりの単価である旨の取り決めがされている場合</p> <p><b>ShipNotice データ</b></p> <p>&lt;ShippedQuantity&gt;</p> <p>&lt;Measurement&gt;</p> <p>&lt;MeasurementValue&gt;1600&lt;/MeasurementValue&gt;</p> <p>&lt;UnitOfMeasureCode</p> <p>Domain="UN-Rec-20"&gt;KGM&lt;/UnitOfMeasureCode&gt;</p> <p>&lt;InvoiceQuantity&gt;</p> <p>&lt;Measurement&gt;</p> <p>&lt;MeasurementValue&gt;800&lt;/MeasurementValue&gt;</p> <p>&lt;UnitOfMeasureCode</p> <p>Domain="UN-Rec-20"&gt;KGM&lt;/UnitOfMeasureCode&gt;</p> <p><b>Invoice データ</b></p> <p>&lt;ProductQuantity&gt;</p> <p>&lt;Measurement&gt;</p> <p>&lt;MeasurementValue&gt;800&lt;/MeasurementValue&gt;</p> <p>&lt;UnitOfMeasureCode Domain="UN-Rec-20"&gt;KGM&lt;/UnitOfMeasureCode&gt;</p>												
8	金額 MonetaryValue	4.6 章を参照												
9	決済条件	<p>決済に関する事項は、以下の通り項目を割り当てる。</p> <table><thead><tr><th>【決済事項】</th><th>【Chem eStandards 項目】</th></tr></thead><tbody><tr><td>決済条件手段</td><td>PaymentTermsOfSale</td></tr><tr><td>締切日</td><td>InvoiceIssueDate</td></tr><tr><td>起算日</td><td>InvoiceDate</td></tr><tr><td>満期日</td><td>PaymentTermsBasisDate</td></tr><tr><td>決済基準</td><td>PaymentTermsBasisDateCode</td></tr></tbody></table>	【決済事項】	【Chem eStandards 項目】	決済条件手段	PaymentTermsOfSale	締切日	InvoiceIssueDate	起算日	InvoiceDate	満期日	PaymentTermsBasisDate	決済基準	PaymentTermsBasisDateCode
【決済事項】	【Chem eStandards 項目】													
決済条件手段	PaymentTermsOfSale													
締切日	InvoiceIssueDate													
起算日	InvoiceDate													
満期日	PaymentTermsBasisDate													
決済基準	PaymentTermsBasisDateCode													

### 3.2 メッセージ交換規則

取引当事者がメッセージを交換する際の規則及びガイドラインを下記に示す。尚、下記表の「Rule or Guide」の列で、「R」と「G」は、以下の内容を表す。

R：守らなければならない規則（強制力あり）

G：規則ではないが、ガイドラインである（強制力なし）

表 3.2 メッセージ交換規則

No	Rule or Guide	ビジネスアクション	概要	詳細内容（メッセージ上の詳細内容は下記のとおりであるが、業務上、調整事項については、電話等によるオフラインでのやり取りがあることを前提とする。）
1	G	各アクション共通	ターンアラウンドの不採用	各メッセージの各項目において、取引当事者間のバックエンドシステムを補助するためのターンアラウンドは行わないことを推奨する。各メッセージで規定されている必須項目以外で、取引に関係しない項目のターンアラウンドを求めることは、取引当事者双方とも原則行わない。  （※ターンアラウンドとは、メッセージを送信する際、ある項目について、先行するメッセージの値をそのまま引継ぎ設定すること。）
2	R	各アクション共通	ロールの定義	各メッセージにおいてのロールの定義は 4.1 章を参照のこと。
3	G	各アクション共通	品名のユニーク化	<b>ProductIdentification&gt;ProductIdentifier</b> （品名のこと）で現品の特定ができるようにすることを推奨するが、これで特定できない場合は、 <b>ProductDescription</b> に、現品を特定するための情報を付加することも可能とする。  例）ある製品について荷姿が異なるにも関わらず <b>ProductIdentifier</b> が同一の場合、荷姿を区別するための情報を上記の項目に付加してもよい。
4	G	各アクション共通	納入先の特定	各メッセージにおいて、納入先を特定する項目は、 <b>ShipTo&gt;PartnerInformation&gt;PartnerIdentifier</b> のみとすることを推奨する。  但し当該項目のみで特定できない場合は、 <b>PartnerName</b> と <b>ShipTo&gt;PartnerInformation&gt;AddressInformation</b> を使用し特定することとする。

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
5	G	各アクション共通	特殊データの取り扱い	返品、破損等の特殊データを取り扱う場合は、OrderCreate～OrderResponse までのメッセージは交換対象外とし、ShipNotice 以降の交換とする。
6	R	新規注文	注文番号のユニーク期間	OrderCreate の PurchaseOrderNumber>DocumentIdentifier (注文番号) について、Buyer は、Buyer>PartnerIdentifier 単位で、1 年間は重複しないようにする。
7	G	新規注文	注文数量単位	OrderCreate の MeasurementValue (注文数量) と UnitOfMeasureCode (注文数量単位) の使用方法は、取引当事者間で予め決めておく。 例 1 : 同一品名について、注文都度、異なる単位での注文は行わない。 例 2 : 液体の濃度品についての数量基準。(純分 or 水分込み) 例 3 : ケース品についての数量基準。(ケース数 or 入り数)
8	G	新規注文	商流の特定	各メッセージにおいて、必須の PartnerInformation 項目だけでは商流が特定できない場合は、商流を特定するための OtherPartner>PartnerInformation 情報を付加しても良い。 例 1 : 商流に三次店がある場合、三次店の PartnerRole を追加する

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
9	R	新規注文	エラーデータの取り扱い	<p>Seller は、受信した OrderCreate (OrderChange も含む) において、品名・納入先等の注文内容について、自社コードに変換できなかった場合は、Buyer に問い合わせた上で自社コードに変換する。ただし、明らかに Buyer 側の要因によりコード変換ができなかった場合は、Buyer に OrderCreate または OrderChange の送信を求めることができる。</p> <p>コミッションモデルの場合、両社で合意されれば、OrderResponse のステータスを利用してエラー情報を授受してもよい。(4.10 章の「LineStatus の使い方(仮称)」を参照)</p>

10	R	注文に対する回答	受注内容の確定	<p>Seller は、OrderCreate 及び OrderChange に対して、受注内容確定後に OrderResponse を返信する場合は、確定した内容を各項目に設定し、LineStatus (受注者処理区分) のタグは使用しない。この時、Buyer は、OrderResponse の内容が OrderCreate もしくは OrderChange の内容と異なっている場合 (数量が異なっている場合等) は、その内容の承諾を示す OrderChange を送信し、Seller はそれに対する OrderResponse を返信する。尚、取引当事者間の取り決めにより、承諾を示す OrderChange 以降の交換は省略してもよい。コミッションモデルの場合は、承諾を示す OrderChange 以降の交換は省略する。(4.3 章の No.4 を参照)</p>
11	R	注文に対する回答	受注内容確定前の注文確認の返信	<p>Seller は、注文を受け付け調整中であることを Buyer に知らせる場合は、LineStatus (受注者処理区分) に "Pending" を設定し、OrderResponse を返信する。その後、受注内容が確定した時点で、再度、確定した内容で OrderResponse を返信する。この時、LineStatus のタグは使用しない。(4.3 章の No.2 を参照)</p>



No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
12	G	注文に対する回答	注文変更に応じられない場合の対応	Seller は、OrderChange に対して応じられない場合は、最初に返した OrderResponse の内容 (Seller 側が認識している内容) を設定して OrderResponse を返信する。これ以降の調整結果の内容により、再度 Buyer が OrderChange を送信したり、OrderChange(Deleted)を送信してもよい。コミッションモデルの場合、OrderResponse のステータスを「無効」にして返送する。(4.3 章の No.7 を参照)
13	R	買い手による注文変更	OrderChange の注文番号	Buyer は、OrderChange を送信する際、PurchaseOrderNumber>DocumentIdentifier (注文番号) については、元の注文と同一の番号を設定しなければならない。
14	R	買い手による注文変更	OrderResponse 受信前の注文変更	Buyer は OrderResponse 受信前であっても、OrderChange を送信することができる。(4.3 章の No.9 を参照)
15	R	買い手による注文変更	注文取消し	Buyer は、注文取消しを行う場合は、元の注文内容を設定した上で、ActionRequest (処理区分) に"Deleted"を設定して、OrderChange を送信する。尚、一度注文取消しを行った注文について、同一の注文番号で再度 OrderChange を送信することはできない。(4.5 章の No.5 を参照)

16	R	買い手による注文変更	OrderResponse が受け入れられない場合の対応	Buyer は受信した OrderResponse が受け入れられない内容の場合は、OrderChange を送信する。この時、ActionRequest (処理区分) は"Deleted"であってもよい。(4.3 章の No.5 を参照)
17	R	売り手による受注変更	OrderResponse 返信後の売り手による注文確認の変更	Seller は、OrderResponse 返信後、Seller 側要因により一度確定した受注内容を変更する場合は、変更後の内容で OrderResponse を再度返信する。この後、Buyer は、その内容の承諾を示す OrderChange を送信し、Seller はそれに対する OrderResponse を返信する。尚、取引当事者間の取り決めにより、承諾を示す OrderChange 以降の交換は省略してもよい。コミッションモデルの場合は、承諾を示す OrderChange 以降の交換は省略する。(4.3 章の No.4 を参照)

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
18	R	分納受注	分納受注の返信方法	Seller が 1 つの OrderCreate に対して分納受注する場合は、取引当事者間で調整した上で、Buyer が分納に対応した OrderChange と OrderCreate を送信する。尚、取引当事者間で合意すれば、Seller は元の OrderCreate に対して分納の OrderResponse を返信する。(4.4 章を参照)
19	G	出荷通知	ShipNotice の送信タイミング	Seller は、現品出庫後、Buyer に遅滞無く ShipNotice を送信する。(4.9 章を参照)
20	R	出荷通知の変更	内容の訂正	Seller は、一度 ShipNotice を送信した後内容を訂正する場合は、前回送信した ShipNotice の内容の赤データと正しい内容の黒データを送信する。赤データは、ShipNoticeStatus に"Cancel"を設定し、黒データは、"Original"を設定する。
21	R	分納の出荷通知	分納出荷の通知方法とユニークキー	Seller は、分納出荷を行った場合、ShipNotice を出荷件数分送信する。この時、一つの注文番号に対して、ShipmentIdentification>DocumentIdentifier (出荷通知番号) が重複してはならない。
22	R	検量通知 (B 型のみ適用)	ReceiptNotice の受け入れ	Seller は、ShipNotice と ReceiptNotice に数量差があっても、ReceiptNotice の数量で請求する。尚、明らかに ReceiptNotice の内容に誤りがあると思われる場合は、Seller は Buyer に、正しい内容の ReceiptNotice の送信を要求することができる。
23	R	検量通知 (B 型のみ適用)	ReceiptNotice 受け取り後の出荷通知の再送信禁止	Seller は、ShipNotice と ReceiptNotice に数量差があっても、ReceiptNotice に数量を合わせるために ShipNotice を再度送信することは行わない。

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
24	R	検量通知の変更（B型のみ適用）	内容の訂正	Buyer は、一度 ReceiptNotice を送信した後内容を訂正する場合は、前回送信した ReceiptNotice の内容の赤データと正しい内容の黒データを送信する。赤データは、ReceiptNoticeStatus に"Cancel"を設定し、黒データは、"Original"を設定する。
25	G	Buyer 検量基準の請求（B型のみ適用）	Invoice の送信可能タイミング	Seller は、ReceiptNotice 受信前に、Invoice を送信してはならない。
26	G	Buyer 検量基準の請求（B型のみ適用）	Invoice の送信タイミング	Seller は、ReceiptNotice 受信後、その内容が受け入れられるものであれば、Invoice を送信する。（日中リアルで送る必要はない）（4.9 章を参照）
27	R	Buyer 検量基準の請求（B型のみ適用）	ReceiptNotice に基づいた請求	Seller は、ReceiptNotice の内容が受け入れられる場合は、その内容に基づいて Invoice を送信する。  （ShipNotice と ReceiptNotice に数量差があっても、ReceiptNotice の数量で Invoice を送信する）
28	G	Seller 出荷数量基準の請求（S型のみ適用）	Invoice の送信タイミング	Seller は、ShipNotice の単位で Invoice を作成し、日次単位で送信する（4.9 章を参照）。また ShipNotice を採用している場合それを送信した後に Invoice を送信する。（日中リアルで送る必要はない）

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
29	R	請求共通	請求数量の設定	Invoice の ProductQuantity>MeasurementValue（販売数量）に設定する数量は、請求数量単位の数量とする。 (運送数量ではなく、単価に掛ける数量を設定すること)
30	G	請求の変更共通	内容の訂正	Seller は、一度 Invoice を送信した後内容を訂正する場合は、前回送信した Invoice の内容の赤データと正しい内容の黒データを送信する。赤データは、InvoiceType に "Credit"を設定し、数量・金額の符号にマイナスを編集する。黒データは、"Debit"を設定する。また遡及の赤データは、InvoiceType に "RetroactiveCredit"を設定し、数量・金額の符号にマイナスを編集する。遡及の黒データは "RetroactiveDebit"を設定する。(4.6 章を参照)
31	R	請求共通	支払い金額の確定	Buyer は、InvoiceDetails>RefenenceInformation>DocumentIdentifier（注文番号等のこと）単位に累計した Invoice の金額を支払うべき金額とみなす。(1 つの注文番号に対して、最後の Invoice の金額のみが支払金額ではないということ)
32	G	請求に対する回答	InvoiceResponse の対象データ	Buyer は、不一致の Invoice についてのみ一致するまで毎日 InvoiceResponse を送信する。

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
33	G	請求に対する回答	InvoiceResponseの送信タイミングと対象データ	Buyer は、InvoiceResponse を1回／日送信するが、一度送信した InvoiceResponse についても、当該 Invoice の不一致が解消されるまで、InvoiceResponse を送信する。 (Buyer は InvoiceResponse を送信する時点で、不一致の Invoice 全てについて InvoiceResponse を送信すること)
34	G	請求に対する回答	疑義の理由通知	Buyer は、不一致の InvoiceResponse を送信する際、ErrorStatus> ErrorFlag には"1"を設定し、ErrorStatus>ErrorDescription に不一致の理由に対応したコードを設定する。なおエラー理由が複数ある場合は、繰り返しで設定する（最大5件まで）。 なお Buyer が認識している内容は、該当する項目に設定する。 例) 10,000 円の請求に対して、Buyer の認識では 9,000 円だった場合 ErrorStatus>ErrorDescription → PRICE InvoiceTotals>MonetaryValue → 9000
35	G	請求に対する回答	InvoiceResponseの訂正	InvoiceResponse の訂正は行わない。Buyer は、自らが送信した InvoiceResponse が送るべきものでなかった場合は、次回から当該 InvoiceResponse の送信は行わないことに対応する。これによって、Seller は不一致が解消されたものとみなす。
36	R	請求確認に対する回答	Seller 側に原因がある場合の対応	Seller は、受信した InvoiceResponse について、不一致の原因が Seller にあると確定した場合は、Invoice の訂正を送信する。

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
37	R	請求確認に対する回答	Buyer 側に原因がある場合の対応	Seller は、受信した InvoiceResponse について、不一致の原因が Buyer にあると思われる場合は、Buyer に内容を確認し、Buyer に原因があると確定した場合は、Buyer は次回から当該 InvoiceResponse の送信を止める。
38	R	検収通知の変更	内容の訂正	Buyer は、一度 AcceptanceNotification を送信した後内容を訂正する場合は、前回送信した AcceptanceNotification の内容の赤データと正しい内容の黒データを送信する。赤データは、SpecialInstructions に"Debit"を設定し、黒データは、"Credit"を設定する。また遡及の赤データは、SpecialInstructions に"RetroactiveDebit"を設定し、遡及の黒データは"RetroactiveCredit"を設定する。(4.7 章を参照)
39	R	支払通知	PaymentDetail の対象データ	Buyer は、Invoice の請求内容や AcceptanceNotification の検収内容について疑義のないデータ（もしくは疑義が解消されたデータ）についてのみ、PaymentDetail を作成し、Seller に送信する。
40	R	取引条件	取引条件の起動者とメッセージ	取引条件を Seller から Buyer に送信する場合、使用するメッセージは、CustomerSpecificCatalogUpdate とする。Buyer から Seller に送信する場合は、RequestForQuote を使用する。また、起動側メッセージに対する回答メッセージという位置付けで、両メッセージを使用してもよい。
41	R	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	管理単位	取引条件(CustomerSpecificCatalogUpdate) は、以下の 3 項目を管理の単位とする。 ① CustomerSpecificCatalogUpdatePartners>Seller>PartnerInformation>PartnerIdentifier(受注企業コード) ② CustomerSpecificCatalogUpdateDetails>CustomerSpecificCatalogUpdateProductLineItem>PriceStructure>DocumentReference>DocumentIdentifier (Seller 契約番号) ③ CustomerSpecificCatalogUpdateDetails>CustomerSpecificCatalogUpdateProductLineItem>CatalogEffectiveDates>FromDateTime (契約開始日(実施年月日))

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
42	G	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	納入先の使用	取引条件の設定に納入先を使用する場合は、CustomerSpecificCatalogUpdateDetails>CustomerSpecificCatalogUpdateProductLineItem>PriceStructure>ShipTo>PartnerInformation の PartnerName、PartnerIdentifier を納入先として使用する。
43	G	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	契約番号	OrderCreate の OrderCreatBody>OrderCreateProperties>ReferenceInformation の 契約番号には、CustomerSpecificCatalogUpdateDetails>CustomerSpecificCatalogUpdateProductLineItem>PriceStructure>DocumentReference>DocumentIdentifier の Seller 契約番号をセットする。
44	R	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	取引条件の変更	Seller は取引条件の変更を行う場合は、CustomerSpecificCatalogUpdateDetails>CustomerSpecificCatalogUpdateProductLineItem>PriceStructure>DocumentReference>DocumentIdentifier (Seller 契約番号) に元の取引条件と同じ契約番号を設定しなければならない。
45	G	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	取引条件の更新条件	Buyer は取引条件の変更を受け取ったとき、以下の条件で取引条件の更新を行う。 1. 元の取引条件と管理単位の項目が同じ内容のデータであった場合、変更後の取引条件で元の取引条件を置き換える。 2. 元の取引条件と管理単位の項目が異なる内容のデータであった場合、元の取引条件と変更後の取引条件の両方を有効とする。
46	R	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	削除条件	Buyer は取引条件の削除を受け取ったとき、「受注企業コード/Seller 契約番号」が同じ取引条件を全て削除する。

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
47	G	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	削除した契約番号	削除した取引条件の契約番号の再利用はしない。 削除した取引を再開する場合も新たに契約番号を取り直す。
48	R	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	新規/変更/削除の区分	取引条件のアクション区分（新規/変更/削除）は <b>CustomerSpecificCatalogUpdateDetails&gt;</b> <b>CustomerSpecificCatalogUpdateProductLineItem</b> を利用し送信する。 その時、@Action 項目に新規の場合は”Add”、 更新の場合は”Replace”、 削除の場合は”Delete”を設定する。
49	R	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	CSCU として利用 するメッセージの 種類	コミッション・モデルでは、納入先情報、単価情報を取引条件メッセージと分離し、納入先情報のみ、単価情報のみでの交換も認める。メッセージは CSCU(取引条件)を使用し項目 XX を用いて使い分ける。  項目 XX 取引条件     1 納入先のみ   2 単価のみ     3
50	G	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	納入先情報の交換	コミッション・モデルで納入先情報（PartnerInformation）のみ交換の場合 <b>CustomerSpecificCatalogUpdateDetails&gt;CustomerSpecificCatalogUpdateProductLineItem&gt;PriceStructure&gt;ShipTo&gt;PartnerInformation</b> の PartnerName（納入先企業名称）、PartnerIdentifier（納入先企業コード）、ContactName（納入先担当者名称）、ContactNumber(納入先担当者連絡番号)、EmailAdress(納入先担当者メールアドレス)を使用する。  不要な必須項目については、空タグを設定する。空タグが使えない場合は String は”X”を最小桁数分、Real は 0 を埋める。



No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
51	G	取引条件 (CustomerSpecificCatalogUpdate)	単価情報の交換	<p>コミッション・モデルで単価情報 (MonetaryAmount) のみ交換の場合 管理単位(受注企業コード/Seller 契約番号/契約開始日(実施年月日))に加え、以下の単価情報を付与する。</p> <p>CustomerSpecificCatalogUpdateDetails&gt;CustomerSpecificCatalogUpdateProductLineItem&gt;PriceStructure&gt;CustomerSpecificCatalogPriceData&gt;CustomerCatalogPrice&gt;Pricing&gt;PricingPerUnit&gt;MonetaryAmount の MonetaryValue (契約単価)、CurrencyCode (通貨単位) を使用する。</p> <p>不要な必須項目については、空タグを設定する。空タグが使えない場合は String は"X"を最小桁数分、Real は 0 を埋める。</p>
52	R	取引条件 (RequestForQuote)	管理単位	<p>取引条件(RequestForQuote)は、以下の 4 項目を管理の単位とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① RequestForQuoteDetails&gt;RequestForQuoteProductLineItem&gt;ProductIdentification&gt;ProductIdentifier (製品コード)</li> <li>② RequestForQuoteDetails&gt;RequestForQuoteProductLineItem&gt;ReferenceInformation&gt;DocumentReference&gt;DocumentIdentifier (Buyer 契約番号)</li> <li>③ RequestForQuotePartners&gt;ShipTo&gt;PartnerInformation&gt;PartnerIdentifier (納入先企業コード)</li> <li>④ RequestForQuoteDetails&gt;RequestForQuoteProductLineItem&gt;RequestedAgreementPeriod&gt;DateTimeRange&gt;FromDateTime (適用開始日)</li> </ul>
53	G	取引条件 (RequestForQuote)	納入先の不使用	<p>取引条件の設定に納入先を使用しない場合は、両者協議の上、納入先企業コードにはダミーコードを設定する。</p>

No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
54	G	取引条件 (RequestForQuote)	契約番号	OrderCreate の OrderCreatBody>OrderCreateProperties>ReferenceInformation の 契約番号には、RequestForQuoteDetails>RequestForQuoteProductLineItem>ReferenceInformation>DocumentReference>DocumentIdentifier の Buyer 契約番号 をセットする。
55	R	取引条件 (RequestForQuote)	取引条件の変更	Buyer は取引条件の変更を行う場合は、RequestForQuoteDetails>RequestForQuoteProductLineItem>ReferenceInformation>DocumentReference>DocumentIdentifier (Buyer 契約番号) に元の取引条件と同じ契約番号を設定しなければならない。
56	G	取引条件 (RequestForQuote)	取引条件の更新条件	Seller は取引条件の変更を受け取ったとき、以下の条件で取引条件の更新を行う。 1. 元の取引条件と管理単位の項目が同じ内容のデータであった場合、変更後の取引条件で元の取引条件を置き換える。 2. 元の取引条件と管理単位の項目が異なる内容のデータであった場合、元の取引条件と変更後の取引条件の両方を有効とする。
57	R	取引条件 (RequestForQuote)	削除条件	Seller は取引条件の削除を受け取ったとき、「製品コード／Buyer 契約番号／納入先企業コード」が同じ取引条件を全て削除する。

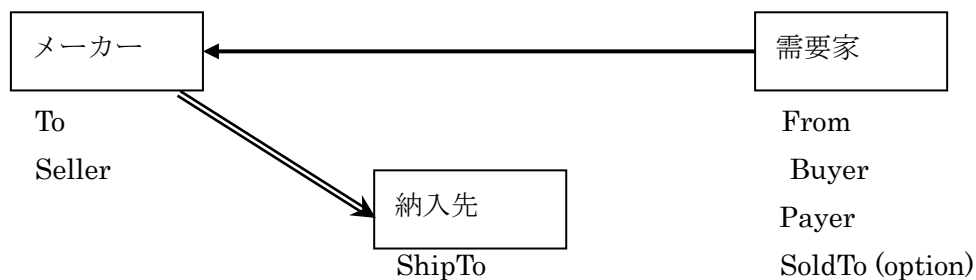
No	R or G	ビジネスアクション	概要	詳細内容
58	R	検査成績	データの識別	CertificateOfAnalysisBody>CertificateOfAnalysisProperties>ReferenceInformation の DocumentReference で項目タイプが@ReferenceType=CertificateOfAnalysis で発行者がユニークとなる番号（ドキュメント番号）を付与してデータの識別を行う。
59	R	検査成績	成績データの変更	一度発行した成績データの変更はできない。変更が必要な場合には、ドキュメント番号を変更して、新たに検査成績データを送信する
60	G	検査成績	複数明細送信	1 件 1 葉での送信を原則とするが、Buyer の要望により複数製品・ロットや複数出荷に対する成績データの送信も可能とする。

## 4. 補足

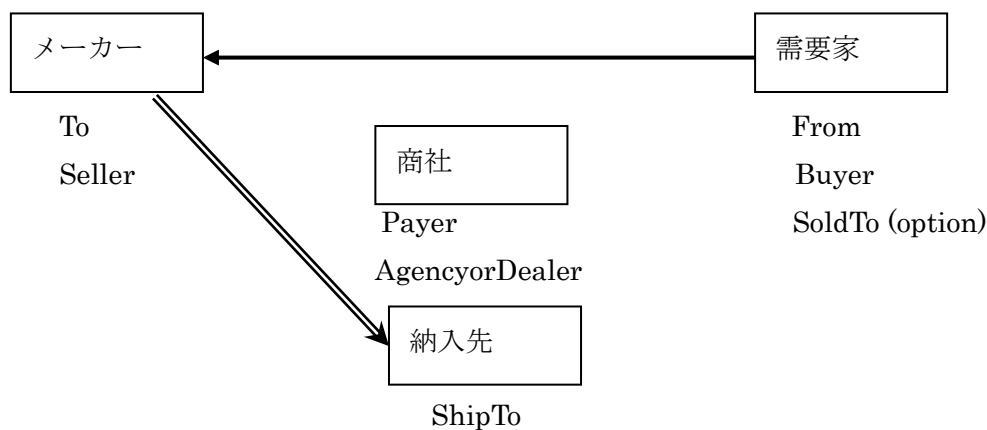
### 4.1 ロールの使用方法

取引の形態別に、OrderCreate をどの企業が発行したかに焦点を当て、主要なロールを下記にまとめた。

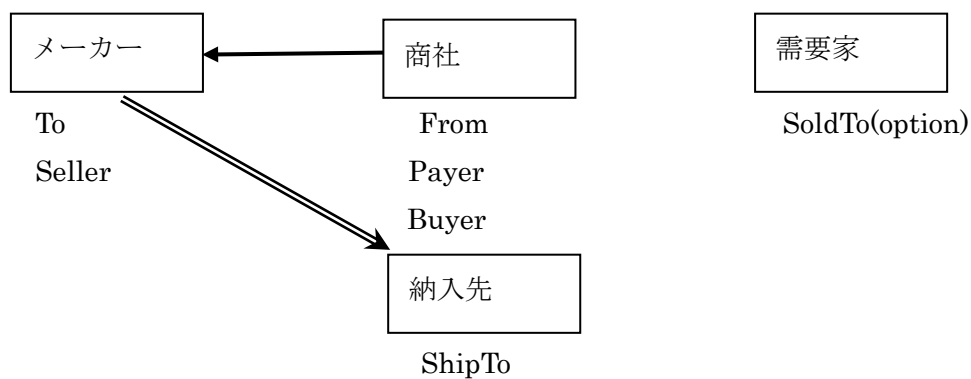
#### 直接取引タイプ



#### 商社経由取引で需要家直接注文タイプ



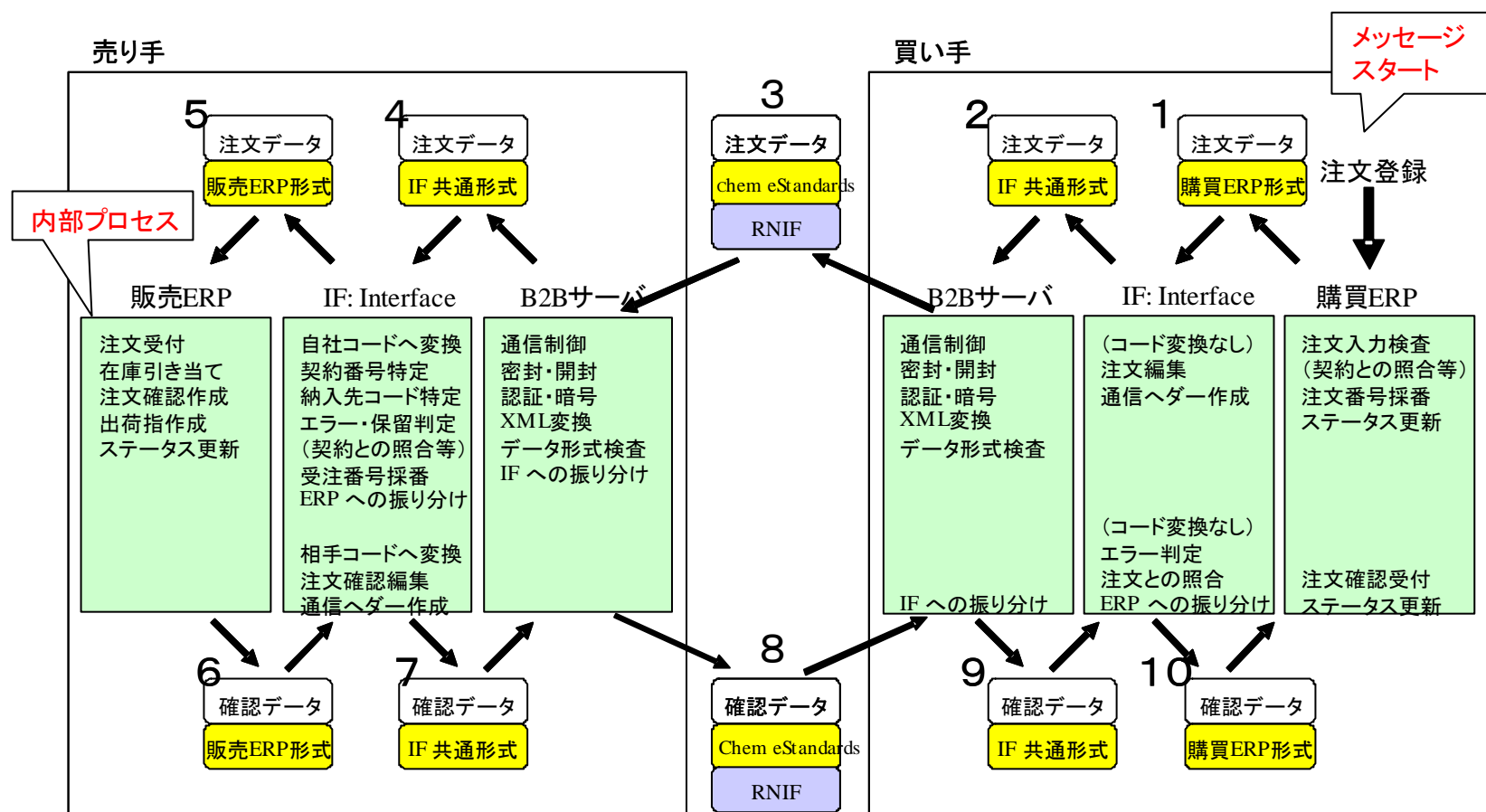
#### 商社経由取引で商社注文タイプ



凡例 OrderCreate の流れ ←  
現品の流れ : →

図 4.1 取引形態別の主要ロール

## 4.2 内部プロセスとメッセージの状態遷移



- ERP・Interface・B2Bサーバの役割分担は各社の実装に依存する

#### 4.3 受発注の業務パターンごとの BuyerSequenceNumber と SellerSequenceNumber 及び ActionRequest、LineStatus の使用方法について

受発注の業務パターンごとの BuyerSequenceNumber と SellerSequenceNumber 及び ActionRequest、LineStatus の使用方法を、下記の4つの観点からパターン分けし、代表的な業務パターンについて例示した。

- 1) 変更・削除の主体は Seller か Buyer か
- 2) 変更・削除の内容は何か
- 3) 変更・削除のタイミングは OrderResponse 交換後か交換前か
- 4) 相手の提示内容を承諾するか否か

尚、代表的な業務パターンとは、以下の通りである。

また、以下で、BSN とは BuyerSequenceNumber、SSN とは SellerSequenceNumber のことである。

##### 代表的な業務パターン

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
1	———	なし	———	Seller が注文内容を承諾
2	———	なし	———	Seller が保留を経て注文内容を承諾
3	Seller	削除	OrderResponse 交換前	Seller が注文内容を拒否
4	Seller	変更	OrderResponse 交換後	Buyer が受注の変更内容を承諾
5	Seller	変更	OrderResponse 交換後	Buyer が受注の変更内容を拒否
6	Buyer	変更	OrderResponse 交換後	Seller が注文の変更内容を承諾
7	Buyer	変更	OrderResponse 交換後	Seller が注文の変更内容を拒否
8	Seller	変更	OrderResponse 交換前	Buyer が受注の変更内容を承諾
9	Buyer	変更	OrderResponse 交換前	Seller が注文の変更内容を承諾

尚、以下の例示においては、Chem eStandards 標準で例示されている項目の使い方ではなく、日本国内の業務を想定した項目の使い方を示している。これは、Chem eStandards 標準に従うと、業務面・システム面において処理が複雑になることが予想されるため、Chem eStandards 標準を一部省略する形式を日本国内では推奨するからである。

尚、Chem eStandards 標準については、「別冊 C Chem eStandards 標準の項目使用方法」を参照されたい。

各パターンのBSNとSSN及びActionRequest及びLineStatusについて

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
1	————	なし	————	Seller が注文内容を承諾

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
②						OrderResponse ←	10001	0	0	20001	100	10/24	

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
2	————	なし	————	Seller が保留を経て注文内容を承諾

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
②						OrderResponse ←	10001	0	0		100	10/24	Pending
③						OrderResponse ←	10001	0	1	20001	100	10/24	

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
3	Seller	削除	OrderResponse 交換前	Seller が注文内容を拒否

・ Seller からの OrderResponse による回答のみで済ませる場合

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
Seller から Buyer へ、注文を受け付けられないことをオフラインで連絡													
②						← OrderResponse	10001	0	0		100	10/24	Deleted

・ Buyer から、OrderChange (Deleted) を送信してもらう場合

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
Seller から Buyer へ、注文を受け付けられないことをオフラインで連絡													
②	10001	1	100	10/24	Deleted	OrderChange →							
③						← OrderResponse	10001	1	0		100	10/24	Deleted



No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
4	Seller	変更	OrderResponse 交換後	Buyer が受注の変更内容を承諾

・ Seller からの OrderResponse による回答のみで済ませる場合

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
②						OrderResponse ←	10001	0	0	20001	100	10/24	
Seller から Buyer へ、受注内容が変更になることをオフラインで連絡													
③						OrderResponse ←	10001	0	1	20001	90	10/24	

・ Buyer から、OrderChange を送信してもらう場合

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
②						OrderResponse ←	10001	0	0	20001	100	10/24	
Seller から Buyer へ、受注内容が変更になることをオフラインで連絡													
③	10001	1	90	10/24		OrderChange →							
④						OrderResponse ←	10001	1	1	20001	90	10/24	

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
5	Seller	変更	OrderResponse 交換後	Buyer が受注の変更内容を拒否

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
②						OrderResponse ←	10001	0	0	20001	100	10/24	
Seller から Buyer へ、受注内容が変更になることをオフラインで連絡													
③						OrderResponse ←	10001	0	1	20001	90	10/26	

Buyer が OrderResponse の内容に同意できない場合は、Seller とオフラインで調整し、更なる注文変更か注文取消しを行う。

・注文変更を行う場合

④	10001	1	70	10/25		OrderChange →							
⑤						OrderResponse ←	10001	1	2	20001	70	10/25	

・注文取消しを行う場合

⑥	10001	1	100	10/24	Deleted	OrderChange →							
⑦						OrderResponse ←	10001	1	2	20001	100	10/24	Deleted

尚、Seller から Buyer へ受注内容が変更になることをオフラインで連絡しているため、上記③の OrderResponse に対して Buyer が変更内容を拒否することはないと思われるが、Seller と Buyer とでオフラインの連絡を行わず、全て EDI で情報交換を行う取引を実施した場合のために、④以降を記述した。

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
6	Buyer	変更	OrderResponse 交換後	Seller が注文の変更内容を承諾

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
②						OrderResponse ←	10001	0	0	20001	100	10/24	
③	10001	1	120	10/26		OrderChange →							
④						OrderResponse ←	10001	1	1	20001	120	10/26	

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
7	Buyer	変更	OrderResponse 交換後	Seller が注文の変更内容を拒否

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
②						OrderResponse ←	10001	0	0	20001	100	10/24	
③	10001	1	120	10/26		OrderChange →							
④						OrderResponse ←	10001	1	1	20001	100	10/24	

OrderResponse で、Seller が注文の変更内容を拒否する場合は、Seller が認識している受注内容の OrderResponse を送信する。

コミッションモデルの場合

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
②						OrderResponse ←	10001	0	0	20001	100	10/24	
③	10001	1	120	10/26		OrderChange →							
④						OrderResponse ←	10001	1	1	20001	120	10/24	Invalid

④ の OrderResponse で、Seller が注文の変更内容を拒否する場合は、③の OrderChange に対して LineStatus”Invalid”を返送する。

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
8	Seller	変更	OrderResponse 交換前	Buyer が受注の変更内容を承諾

・ Seller からの OrderResponse による回答のみで済ませる場合

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
Seller から Buyer へ、受注内容が変更になることをオフラインで連絡													
②						OrderResponse ←	10001	0	0	20001	90	10/24	

・ Buyer から、OrderChange を送信してもらう場合

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
Seller から Buyer へ、受注内容が変更になることをオフラインで連絡													
②	10001	1	90	10/24		OrderChange →							
③						OrderResponse ←	10001	1	0	20001	90	10/24	

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
9	Buyer	変更	OrderResponse 交換前	Seller が注文の変更内容を承諾

	Buyer					メッセージ	Seller						
	注文番号	BSN	注文数量	納入日	ActionRequest		注文番号	BSN	SSN	受注番号	受注数量	納入日	LineStatus
①	10001	0	100	10/24		OrderCreate →							
②	10001	1	120	10/26		OrderChange →							
③						OrderResponse ←	10001	1	0	20001	120	10/26	

#### 4.4 分納受注時のメッセージの交換ルールと各主要項目の使用方法について

分納受注が発生した場合のメッセージの交換ルールと各主要項目の使用方法を、下記の観点からパターン分けして例示した。

- ・分納受注の回答を複数明細の **OrderResponse** を使用して行うか否か

上記で、分納受注の回答を複数明細の **OrderResponse** を使用せずに行う場合は、Buyer が元の **OrderCreate** に対する **OrderChange** と新たな **OrderCreate** を送信して運用することになる。

尚、パターン分けは以下の通りで、分納受注が確定するタイミングは **OrderResponse** 交換前の場合を例示した。

また、以下で、BSN とは BuyerSequenceNumber、SSN とは SellerSequenceNumber、POLIN とは PurchaseOrderLineNumber、のことである。

##### 例示のパターン分け

No	複数明細の <b>OrderResponse</b> を使用するか否か	分納受注が確定するタイミング	備考
1	使用する	<b>OrderResponse</b> 交換前	コミッションモデルの場合は、適用外
2	使用しない	<b>OrderResponse</b> 交換前	

各パターンのメッセージの交換ルールと各主要項目の使用法について

No	複数明細の OrderResponse を使用するかどうか	分納受注が確定するタイミング
1	使用する	OrderResponse 交換前

※コミッションモデルの場合は、適用外

・ Seller からの OrderResponse による回答のみで済ませる場合

	Buyer								メッセージ	Seller								
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日
①	10001	0	1	10	A123	100	10/24		OrderCreate →									
Seller から Buyer へ、分納受注になることをオフラインで連絡																		
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25
													2	10	A123	30001	30	10/26

・ Buyer から、OrderChange を送信してもらう場合

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	100	10/24		OrderCreate →										
Seller から Buyer へ、分納受注になることをオフラインで連絡																			
②	10001	1	1	10	A123	70	10/25		OrderChange →										
			2	20	A123	30	10/26												
③									OrderResponse ←	10001	1	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
													2	20	A123	30001	30	10/26	

No	複数明細の OrderResponse を使用するか否か	分納受注が確定するタイミング
2	使用しない	OrderResponse 交換前

・ Buyer から、OrderChange を送信してもらう場合

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	100	10/24		OrderCreate →										
Seller から Buyer へ、分納受注になることをオフラインで連絡																			
②	10001	1	1	10	A123	70	10/25		OrderChange →										
③	10022	0	1	10	A123	30	10/26		OrderCreate →										
④									OrderResponse ←	10001	1	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
⑤									OrderResponse ←	10022	0	0	1	10	A123	30001	30	10/26	

・ Seller からの複数の OrderResponse による回答のみで済ませる場合

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	100	10/24		OrderCreate →										
Seller から Buyer へ、分納受注になることをオフラインで連絡																			
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
③									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	30001	30	10/26	



・ Seller からの OrderResponse による回答のみで済ませ、不足分は Buyer から OrderCreate を送信してもらう場合

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	100	10/24		OrderCreate →										
Seller から Buyer へ、分納受注になることをオフラインで連絡																			
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
③	10022	0	1	10	A123	30	10/26		OrderCreate →										
④									OrderResponse ←	10022	0	0	1	10	A123	30001	30	10/26	

OrderResponse には 1 回目の分納分に関する内容を設定する。

#### 4.5 一注文複数明細運用時のメッセージの交換ルールと各主要項目の使用方法について

※本項は、コミッションモデルの場合は、適用外

一注文複数明細を運用した場合のメッセージの交換ルールと各主要項目の使用方法を、下記の2つの観点からパターン分けして例示した。

- 1) 変更・削除の内容は何か
- 2) 相手の提示内容を承諾するか否か

尚、パターン分けは以下の通りで、変更・削除の主体はBuyerで変更・削除のタイミングはOrderResponse交換後の場合を例示した。

また、以下で、BSNとはBuyerSequenceNumber、SSNとはSellerSequenceNumber、

POLINとはPurchaseOrderLineItemNumberのことである。

また、特殊ケースとして、一部の明細だけ削除された場合の変更業務について追記した。

##### 例示のパターン分け

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
1	———	なし	———	Sellerが注文内容を承諾
2	———	なし	———	Sellerが保留を経て注文内容を承諾
3	Buyer	変更	OrderResponse交換後	Sellerが注文の変更内容を承諾
4	Buyer	変更	OrderResponse交換後	Sellerが注文の変更内容を拒否
5	Buyer	削除	OrderResponse交換後	Sellerが注文の削除を承諾
6	Buyer	削除	OrderResponse交換後	Sellerが注文の削除を拒否
7	特殊ケース：一部の明細だけ削除された変更に対してSellerが変更内容を拒否			

各パターンのメッセージの交換ルールと各主要項目の使用方法について

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
1	——	なし	——	Seller が注文内容を承諾

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	70	10/25		OrderCreate →										
			2	20	B456	30	10/25												
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
												2	20	B456	20001	30	10/25		

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
2	——	なし	——	Seller が保留を経て注文内容を承諾

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 目	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 目	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	70	10/25		OrderCreate →										
			2	20	B456	30	10/25												
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
												2	20	B456		30	10/25	Pending	
③									OrderResponse ←	10001	0	1	1	10	A123	20001	70	10/25	
												2	20	B456	20001	30	10/25		

②の OrderResponse で、回答を保留する明細の LineStatus には「Pending」を設定し、承諾する明細の LineStatus には何も設定せずに OrderResponse を送信する。

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
3	Buyer	変更	OrderResponse 交換後	Seller が注文の変更内容を承諾

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	70	10/25		OrderCreate →										
			2	20	B456	30	10/25												
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
												2	20	B456	20001	30	10/25		
③	10001	1	1	10	A123	100	10/25		OrderChange →										
			2	20	B456	30	10/25												
④									OrderResponse ←	10001	1	1	1	10	A123	20001	100	10/25	
												2	20	B456	20001	30	10/25		

③の OrderChange で、変更しない明細 (POLIN : 20) については送信しなくてもよい。この場合、Seller は、送信されて来ない明細については、元の注文内容で有効であるとみなす。

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
4	Buyer	変更	OrderResponse 交換後	Seller が注文の変更内容を拒否

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	70	10/25		OrderCreate →										
			2	20	B456	30	10/25												
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
												2	20	B456	20001	30	10/25		
③	10001	1	1	10	A123	100	10/25		OrderChange →										
			2	20	B456	30	10/25												
④									OrderResponse ←	10001	1	1	1	10	A123	20001	70	10/25	
												2	20	B456	20001	30	10/25		

③の OrderChange で、変更しない明細（POLIN：20）については送信しなくてもよい。この場合、Seller は、送信されて来ない明細については、元の注文内容で有効であるとみなす。また、④の OrderResponse で、Seller が注文の変更内容を拒否する場合は、Seller が認識している受注内容の OrderResponse を送信する。

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
5	Buyer	削除	OrderResponse 交換後	Seller が注文の削除を承諾

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	70	10/25		OrderCreate →										
			2	20	B456	30	10/25												
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
												2	20	B456	20001	30	10/25		
③	10001	1	1	10	A123	70	10/25	Deleted	OrderChange →										
			2	20	B456	30	10/25	Deleted											
④									OrderResponse ←	10001	1	1	1	10	A123	20001	70	10/25	Deleted
												2	20	B456	20001	30	10/25	Deleted	

③の OrderChange で、注文を削除する場合は、全明細の ActionRequest に「Deleted」を設定する。（一部の明細だけに「Deleted」を設定することにより、注文全体を削除することを表すことはできない。）また、④の OrderResponse で、Seller が注文の削除を承諾する場合は、全明細の LineStatus に「Deleted」を設定する。

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
6	Buyer	削除	OrderResponse 交換後	Seller が注文の削除を拒否

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	70	10/25		OrderCreate →										
			2	20	B456	30	10/25												
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
												2	20	B456	20001	30	10/25		
③	10001	1	1	10	A123	70	10/25	Deleted	OrderChange →										
			2	20	B456	30	10/25	Deleted											
④									OrderResponse ←	10001	1	1	1	10	A123	20001	70	10/25	
												2	20	B456	20001	30	10/25		

③の OrderChange で、注文を削除する場合は、全明細の ActionRequest に「Deleted」を設定する。（一部の明細だけに「Deleted」を設定することにより、注文全体を削除することを表すことはできない。）また、④の OrderResponse で、Seller が注文の削除を拒否する場合は、全明細の LineStatus には何も設定せずに、Seller が認識している受注内容の OrderResponse を送信する。

No	変更・削除の主体	変更・削除の内容	変更・削除のタイミング	相手の提示内容を承諾するか否か
7	特殊ケース：一部の明細だけ削除された変更に対して Seller が変更内容を拒否			

	Buyer								メッセージ	Seller									
	注文 番号	BS N	Line Number	PO LIN	品名	注文 数量	納入 日	Action Request		注文 番号	BS N	SS N	Line Number	PO LIN	品名	受注 番号	受注 数量	納入 日	Line Status
①	10001	0	1	10	A123	70	10/25		OrderCreate →										
			2	20	B456	30	10/25												
			3	30	C789	50	10/25												
②									OrderResponse ←	10001	0	0	1	10	A123	20001	70	10/25	
									2	20	B456	20001	30	10/25					
									3	30	C789	20001	50	10/25					
③	10001	1	1	10	A123	70	10/25	Deleted	OrderChange →										
			2	20	B456	30	10/25												
			3	30	C789	50	10/25												
④									OrderResponse ←	10001	1	1	1	10	A123	20001	70	10/25	
									2	20	B456	20001	30	10/25					
									3	30	C789	20001	50	10/25					

③の OrderChange で、一部の明細だけ削除する場合は、削除する明細の ActionRequest に「Deleted」を設定する。このとき、変更しない明細（POLIN：10,30）については送信しなくてもよい。この場合、Seller は、送信されて来ない明細については、元の注文内容で有効であるとみなす。また、④の OrderResponse で、一部の明細だけ削除された変更に対して Seller が変更内容を拒否する場合は、Seller が認識している受注内容の OrderResponse を送信する。



## 4.6 請求の業務パターンごとの各主要項目の使用方法について

請求の業務パターンごとに、各主要項目の使用方法を下記に例示した。尚、パターン分けは以下の通りである。

### 例示のパターン分け

No	業務内容
1	通常の出荷の請求
2	通常の出荷の請求取消
3	通常の出荷の請求訂正（赤黒方式）
4	通常の出荷の請求訂正（差分方式、差分結果が Seller 請求の場合）
5	通常の出荷の請求訂正（差分方式、差分結果が Seller 支払の場合）
6	価格適及時の請求（個別明細ごとの赤黒方式）
7	価格適及時の請求（個別明細ごとの差分方式、差分結果が Seller 請求の場合）
8	価格適及時の請求（個別明細ごとの差分方式、差分結果が Seller 支払の場合）
9	価格適及時の請求（一括適及の差分方式、差分結果が Seller 請求の場合）
10	価格適及時の請求（一括適及の差分方式、差分結果が Seller 支払の場合）
11	返品時の請求

### 補足

上記で記述している、赤黒方式、差分方式、個別明細ごとの赤黒方式、個別明細ごとの差分方式、一括適及の差分方式とは以下の請求形態をいう。例を用いて記述する。

例) 過去に以下の請求があり、数量を 3,100 に修正する場合

数量	単価	税抜請求金額	税金	税込請求金額
3,000	100	300,000	15,000	315,000

#### 赤黒方式

数量	単価	税抜請求金額	税金	税込請求金額
-3,000	100	-300,000	-15,000	-315,000
3,100	100	310,000	15,500	325,500

#### 差分方式

数量	単価	税抜請求金額	税金	税込請求金額
100	100	10,000	500	10,500

例) 過去に以下の請求があり、単価を 120 に遡及訂正する場合

数量	単価	税抜請求金額	税金	税込請求金額
3,000	100	300,000	15,000	315,000
2,000	100	200,000	10,000	210,000

#### 個別明細ごとの赤黒方式

数量	単価	税抜請求金額	税金	税込請求金額
-3,000	100	-300,000	-15,000	-315,000
3,000	120	360,000	18,000	378,000
-2,000	100	-200,000	-10,000	-210,000
2,000	120	240,000	12,000	252,000

#### 個別明細ごとの差分方式

数量	単価	税抜請求金額	税金	税込請求金額	
3,000	20	60,000	3,000	63,000	(税抜請求金額=数量 3,000*単価差 20=60,000)
2,000	20	40,000	2,000	42,000	(税抜請求金額=数量 2,000*単価差 20=40,000)

#### 一括遡及の差分方式

数量	単価	税抜請求金額	税金	税込請求金額	
なし	なし	100,000	5,000	105,000	(税抜請求金額=数量 5,000*単価差 20=100,000)

各パターンの各主要項目の使用方法について（<InvoiceBody>の<InvoiceProperties>の数量項目は省略している。）

項目名（和訳）	請求番号	請求タイプ	請求数量	税抜請求金額	税金	単価	税込請求金額	参照番号 （注文番号の場合）
Chem eStandards項目名          業務パターン	<InvoiceBody> <InvoiceProperties> <InvoiceNumber> <DocumentReference> <DocumentIdentifier>	<InvoiceBody> <InvoiceProperties> <InvoiceType>	<InvoiceBody> <InvoiceDetails> <InvoiceLineItem> <ProductQuantity> <Measurement> <MeasurementValue>	<InvoiceBody> <InvoiceDetails> <InvoiceLineItem> <Pricing PriceType= "NetPrice"> <PricingLumpSum> <MonetaryAmount> <MonetaryValue>	<InvoiceBody> <InvoiceDetails> <InvoiceLineItem> <Pricing PriceType= "Taxees"> <PricingLumpSum> <MonetaryAmount> <MonetaryValue>	<InvoiceBody> <InvoiceDetails> <InvoiceLineItem> <Pricing PriceType= "xxxx"> <PricingPerUnit> <MonetaryAmount> <MonetaryValue>	<InvoiceBody> <InvoiceDetails> <InvoiceLineItem> <Pricing PriceType= "GrossPrice"> <PricingLumpSum> <MonetaryAmount> <MonetaryValue>	<InvoiceBody> <InvoiceDetails> <InvoiceLineItem> <ReferenceInformation ReferenceType="Purcha seOrderNumber"> <DocumentReference> <DocumentIdentifier>
通常の出荷の請求	P110026	Debit	3000	300000	15000	100	315000	POA12345
通常の出荷の請求取消	P110027	Credit	-3000	-300000	-15000	100	-315000	POA12345
通常の出荷の請求訂正 （赤黒方式）	P110028	Credit	-3000	-300000	-15000	100	-315000	POA12345
	P110029	Debit	3100	310000	15500	100	325500	POA12345
通常の出荷の請求訂正 （差分方式、差分結果がSeller 請求）	P110030	Debit	100	10000	500	100	10500	POA12345
通常の出荷の請求訂正 （差分方式、差分結果がSeller 支払）	P110031	Credit	-100	-10000	-500	100	-10500	POA12345
価格遡及時の請求 （個別明細ごとの赤黒方式）	P110032	RetroactiveCredit	-3000	-300000	-15000	100	-315000	POA12345
	P110033	RetroactiveDebit	3000	360000	18000	120	378000	POA12345
価格遡及時の請求（個別明細ごとの差分方式、差分結果がSeller 請求）	P110034	RetroactiveDebit	3000	60000	3000	20	63000	POA12345
価格遡及時の請求（個別明細ごとの差分方式、差分結果がSeller 支払）	P110035	RetroactiveCredit	3000	-60000	-3000	-20	-63000	POA12345
価格遡及時の請求（一括遡及の差分方式、差分結果がSeller 請求）	P110036	RetroactiveDebit	0	100000	5000	0	105000	内容は当事者間で決定する
価格遡及時の請求（一括遡及の差分方式、差分結果がSeller 支払）	P110037	RetroactiveCredit	0	-100000	-5000	0	-105000	内容は当事者間で決定する
返品時の請求	P110038	Credit	-50	-5000	-250	100	-5250	POA12345

#### 4.7 検収通知の業務パターンごとの各主要項目の使用方法について

検収通知の業務パターンごとに、各主要項目の使用方法を下記に例示した。尚、パターン分けは以下の通りである。

##### 例示のパターン分け

No	業務内容
1	通常の出荷の検収通知
2	通常の出荷の検収通知取消
3	通常の出荷の検収通知訂正（赤黒方式）
4	通常の出荷の検収通知訂正（差分方式、差分結果が Buyer 支払の場合）
5	通常の出荷の検収通知訂正（差分方式、差分結果が Buyer 請求の場合）
6	価格遡及時の検収通知（個別明細ごとの赤黒方式）
7	価格遡及時の検収通知（個別明細ごとの差分方式、差分結果が Buyer 支払の場合）
8	価格遡及時の検収通知（個別明細ごとの差分方式、差分結果が Buyer 請求の場合）
9	価格遡及時の検収通知（一括遡及の差分方式、差分結果が Buyer 支払の場合）
10	価格遡及時の検収通知（一括遡及の差分方式、差分結果が Buyer 請求の場合）
11	返品時の検収通知

##### 補足

上記で記述している、赤黒方式、差分方式、個別明細ごとの赤黒方式、個別明細ごとの差分方式、一括遡及の差分方式とは以下の検収通知形態をいう。例を用いて記述する。

例) 過去に以下の検収通知があり、数量を 3,100 に修正する場合

数量	単価	税抜検収金額	税金	税込検収金額
3,000	100	300,000	15,000	315,000

##### 赤黒方式

数量	単価	税抜検収金額	税金	税込検収金額
-3,000	100	-300,000	-15,000	-315,000
3,100	100	310,000	15,500	325,500

##### 差分方式

数量	単価	税抜検収金額	税金	税込検収金額
100	100	10,000	500	10,500

例) 過去に以下の検収通知があり、単価を 120 に遡及訂正する場合

数量	単価	税抜検収金額	税金	税込検収金額
3,000	100	300,000	15,000	315,000
2,000	100	200,000	10,000	210,000

#### 個別明細ごとの赤黒方式

数量	単価	税抜検収金額	税金	税込検収金額
-3,000	100	-300,000	-15,000	-315,000
3,000	120	360,000	18,000	378,000
-2,000	100	-200,000	-10,000	-210,000
2,000	120	240,000	12,000	252,000

#### 個別明細ごとの差分方式

数量	単価	税抜検収金額	税金	税込検収金額	
3,000	20	60,000	3,000	63,000	(税抜検収金額=数量 3,000*単価差 20=60,000)
2,000	20	40,000	2,000	42,000	(税抜検収金額=数量 2,000*単価差 20=40,000)

#### 一括遡及の差分方式

数量	単価	税抜検収金額	税金	税込検収金額	
なし	なし	100,000	5,000	105,000	(税抜検収金額=数量 5,000*単価差 20=100,000)

各パターンの各主要項目の使用方法について（表中のAN \*\*はAcceptance Notification \*\*の略）

[illegible]

#### 4.8 検収通知と支払明細の業務パターンごとの各主要項目の使用方法について

各パターンの各主要項目の使用方法について（表中のPD\_\*\*はPaymentDetail\_\*\*の略）

項目名（和訳）	支払明細番号	支払明細識別番号	赤黒区分	販売数量	税抜支払金額	購買発注番号	支払消費税額	税込支払額
Chem eStandards項目名          業務パターン	<PD_Body> <PD_Properties> <BuyerTransactionNumber>	<PD_Body> <PD_Details> <PD_LineItem> <ReconciliationNumber> <DocumentReference> <DocumentIdentifier>	<PD_Body> <PD_Details> <PD_LineItem> <InvoiceType>	<PD_Body> <PD_Details> <PD_LineItem> <ProductQuantity> <Measurement> <MeasurementValue>	<PD_Body> <PD_Details> <PD_LineItem> <Pricing> <PricingLumpSum> <MonetaryAmount> <MonetaryValue>	<PD_Body> <PD_Details> <PD_LineItem> <PurchaseOrderNumber> <DocumentIdentifier>	<PD_Body> <PD_Details> <PD_LineItem> <Shipping> <MonetaryAmount> <MonetaryValue>	<PD_Body> <PD_Details> <PD_LineItem> <LineItemTotal> <MonetaryAmount> <MonetaryValue>
通常の出荷の支払明細	P110026	450001234500010	Credit	3000	300000	450001234500010	15000	315000
通常の出荷の支払明細取消	P110027	450001234500010	Debit	-3000	-300000	450001234500010	-15000	-315000
通常の出荷の支払明細訂正 （赤黒方式）	P110028	450001234500010	Debit	-3000	-300000	450001234500010	-15000	-315000
	P110029	450001234500010	Credit	3100	310000	450001234500010	15500	325500
通常の出荷の検収通知訂正 （差分方式、差分結果がBuyer 支払）	P110030	450001234500010	Credit	100	10000	450001234500010	500	10500
通常の出荷の検収通知訂正 （差分方式、差分結果がBuyer 請求）	P110031	450001234500010	Debit	-100	-10000	450001234500010	-500	-10500
価格遡及時の検収通知 （個別明細ごとの赤黒方式）	P110032	450001234500010	RetroactiveDebit	-3000	-300000	450001234500010	-15000	-315000
	P110033	450001234500010	RetroactiveCredit	3000	360000	450001234500010	18000	378000
価格遡及時の検収通知（個別明細ごとの差分方式、差分結果がBuyer 支払）	P110034	450001234500010	RetroactiveCredit	3000	60000	450001234500010	3000	63000
価格遡及時の検収通知（個別明細ごとの差分方式、差分結果がBuyer 請求）	P110035	450001234500010	RetroactiveDebit	3000	-60000	450001234500010	-3000	-63000
価格遡及時の検収通知（一括遡及の差分方式、差分結果がBuyer 支払）	P110036	内容は当事者間で決定する	RetroactiveCredit	5000	100000	内容は当事者間で決定する	5000	105000
価格遡及時の検収通知（一括遡及の差分方式、差分結果がBuyer 請求）	P110037	内容は当事者間で決定する	RetroactiveDebit	5000	-100000	内容は当事者間で決定する	-5000	-105000
返品時の支払明細	P110038	450001234500010	Debit	-50	-5000	450001234500010	-250	-5250

#### 4.9 各メッセージの送信タイミング（推奨）について

各メッセージの送信タイミング（推奨）は以下の通りである。

メッセージ	送信タイミング（推奨）	送信タイミングの例
RequestForQuote	日中リアルタイム	取引条件入力後、ほぼリアルタイム送信
CustomerSpecificCatalogUpdate	日中リアルタイム	取引条件入力後、ほぼリアルタイム送信
InventoryActualUsageResponse	バッチ送信	基幹システムの在庫情報をバッチ送信
OrderCreate	日中リアルタイム	注文入力後、ほぼリアルタイム送信
OrderChange	日中リアルタイム	注文変更入力後、ほぼリアルタイム送信
OrderStatusRequest	日中リアルタイム	注文状況問合せ入力後、ほぼリアルタイム送信
OrderStatusResponse	日中リアルタイム	注文状況確認後、ほぼリアルタイム送信
OrderResponse	日中リアルタイム	受注伝票処理後、ほぼリアルタイム送信
ShipNotice	日中リアルタイム	現品出荷後、ほぼリアルタイム送信
CertificateOfAnalysis	日中リアルタイム	現品出荷後、ほぼリアルタイム送信
ReceiptNotice	デイリーバッチ	現品受領後、夜間送信
AcceptanceNotification	デイリーバッチ	検収処理後、夜間送信
Invoice	デイリーバッチ	現品出荷後、夜間送信
InvoiceResponse	デイリーバッチ	Invoice 内容確認後、夜間送信
PaymentDetail	月次バッチ	月 1 回送信



#### 4.10 OrderResponse における LineStatus の使い方(仮称)について

LineStatus の使い方は以下の通りである。

ステータス	LineStatus	利用方法	備考
確定 保留	スペース (△) Pending	注文通り出荷が可能な場合に使用する 受注担当者が、情報（データ）を受けたが、確定まではできず、何らかの理由で回答を一旦保留したい場合に使用する 例えば、現物在庫がなく生産計画の確認を行う必要があり、更に生産計画の見直しを行うため回答に日数がかかる時など。	
削除 未処理	Deleted Untreat	基本的には、受注者は、発注者からの発注データを受信しただけの状況では、通信メッセージ(ACK)で対応することとする。 しかしながら、これは基幹システムに到着した状態ではない。通信で正常に着信しただけの情報では満足できず、相手（受注会社の基幹システム）まで、着信したという情報を得たいという場合に利用。（任意ステータス）	※コミッションモデルの場合 *業務として採用するかどうかは各社判断。任意。
エラー	Error	取引条件No.や各コード変換などでエラーが発生した場合に返送	※コミッションモデルの場合*業務として採用するかどうかは各社判断。任意。
無効	Invalid	発注先から注文の変更や取消を受信したが、既に出荷手配済みのため対応できない場合に使用する。	※コミッションモデルの場合
生産中	Product	生産中（受注時、在庫になく生産開始から在庫計上までの状況） 納期回答は別途だが、委託加工先への生産指示中であり注文変更受付不可の場合などで利用。 注）受注者側は確定ステータスでありながら、備考欄を利用して「生産中」として回答はしないこと。このステータスを利用する。	※コミッションモデルの場合 *業務として採用するかどうかは各社判断。任意。

#### 4.11 取引条件の送信パターンについて

取引条件の送信パターンと主要項目について以下に例示した。

##### (1)新規取引条件の送信

	Buyer	メッセージ	Seller								
			項目 XX	@Action	受 注 企 業 コード	Seller 契約 番号	契約開始日 (実施年月日)	契約終了日	製品コード	納入先	単価
①		Customer Specific Catalog Update ←	1	Add	A10001	1000001	2013/10/1	9999/12/31	110111	C101	100

① 項目 XX に”1”を設定し取引条件の送信を行う。

##### (2)特定日からの取引条件の見直し

	Buyer	メッセージ	Seller								
			項目 XX	@Action	受 注 企 業 コード	Seller 契約 番号	契約開始日 (実施年月日)	契約終了日	製品コード	納入先	単価
①		Customer Specific Catalog Update ←	1	Add	A10001	1000001	2013/12/1	9999/12/31	110111	C102	100
②		※メッセージ送受 信せず内部処理で 対応			A10001	1000001	2013/10/1	2013/11/30	110111	C101	100
③		Customer Specific Catalog Update ←	1	Replace	A10001	1000001	2013/12/1	9999/12/31	110111	C102	120

① 見直しを行う日付の契約開始日(実施年月日)の取引条件を送信する。

② 見直しを行った直前の日付の取引条件については、Seller、Buyer 両社で契約終了日を前日に変更する。

③ 契約番号と契約開始日(実施年月日)が同じ場合は、Replace として見直しを行う取引条件を送信する。

### (3) 特定日付の取引条件の削除

	Buyer	メッセージ	Seller								
			項目 XX	@Action	受注企業コード	Seller 契約番号	契約開始日 (実施年月日)	契約終了日	製品コード	納入先	単価
※					A10001	1000001	2013/12/1	9999/12/31	110111	C102	100
①		Customer Specific Catalog Update ←	1	Replace	A10001	1000001	2013/12/1	9999/12/31	110111	C101	100

※上記(2)-①で見直しした取引条件

- ① 特定日からの見直しを行った取引条件の削除については、Delete での削除とはせず Replace としてその契約開始日(実施年月日)で内容の変更を行う事で対応する。

### (4) 取引条件の削除

	Buyer	メッセージ	Seller								
			項目 XX	@Action	受注企業コード	Seller 契約番号	契約開始日 (実施年月日)	契約終了日	製品コード	納入先	単価
①		Customer Specific Catalog Update ←	1	Delete	A10001	1000001	<空タグ>	<空タグ>	<空タグ>		<空タグ>

- ① 削除については Delete で送信され、対応として受注企業コードと Seller 契約番号が同じ取引条件全てを削除対象とする。

#### (5)納入先のみの送信

	Buyer	メッセージ	Seller								
			項目 XX	@Action	受注企業コード	Seller契約番号	契約開始日(実施年月日)	契約終了日	製品コード	納入先	単価
①		Customer Specific Catalog Update	2	Add	<空タグ>	<空タグ>	<空タグ>	<空タグ>	<空タグ>	C111	<空タグ>

① 項目 XX に”2”を設定し、納入先関連項目のみ設定し送信することが可能。

#### (6)単価のみの送信

	Buyer	メッセージ	Seller								
			項目 XX	@Action	受注企業コード	Seller契約番号	契約開始日(実施年月日)	契約終了日	製品コード	納入先	単価
①		Customer Specific Catalog Update	1		A10001	1000001	2013/10/1	9999/12/31	110111	C101	
		Customer Specific Catalog Update	3	Add	A10001	1000001	2013/10/1	9999/12/31	<空タグ>		120

① 項目 XX に”3”を設定し、管理単位の 3 項目(受注企業コード/Seller 契約番号/契約開始日(実施年月日))に加え、単価関連項目を設定し送信することが可能。

## 参考文献

### 1. 参考図書

書 名	発 行 者
平成12年度経済産業省補助事業 化学品取引情報化事業報告書 3/3 「次世代EDIシステムの調査研究」 (平成14年3月)	財団法人 化学技術戦略推進機構
石油化学工業協会ビジネスプロトコル標準書<第2版> > (平成4年8月)	石油化学工業協会 情報通信委員会・ビジネスプロトコル小委員会
図解 ロゼッタネットがe ビジネスを変える	監修 : ロゼッタネットジャパン 代表 吉川英一 著 : 阿久津 誠 出版社: 翔泳社
ロゼッタネット完全解説	監修 : ロゼッタネットジャパン 運営委員会 出版社: オーム社
ASC X12 Standard for EDI (Release 4060)	

### 2. 参考URL

	URL
米国OAGi	<a href="http://www.oagi.org/">http://www.oagi.org/</a>
石油化学工業協会	<a href="http://www.jpca.or.jp/">http://www.jpca.or.jp/</a>
EIAJ (日本電子機械工業会)	<a href="http://www.jeita.or.jp/eiaj/japanese/">http://www.jeita.or.jp/eiaj/japanese/</a>

# Usage Guidelines

Version 2.1.0

～日本におけるChem eStandards 利用指針～

2021年1月 発行

石油化学工業協会

情報通信委員会・CEDI-WG